

IAUD Newsletter Vol.5 第2号（2012年4月号）目次

1. 特集：「2011年度IAUD成果報告会&国際会議プレイヴェント」開催報告・・・1
2. IAUD 5月の行事予定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

特集：「2011年度IAUD成果報告会&国際会議プレイヴェント」開催報告



3月22日（木）にパナソニックセンター東京（東京都江東区）で開催された「2011年度IAUD成果報告会&プレイヴェント」は、会員やメディア関係者など200人弱が参加し、大盛況のうちに終了しました。

Newsletter3月号では速報として写真を中心にお伝えしましたが、今号では研究部会の成果報告と、プレイヴェントでの講演会の概要をお伝えします。

Newsletter3月号はこちらをご覧ください。↓

http://www.iaud.net/dayori-f/data/newsletter/2011/Newsletter18-1203_bn.pdf

研究部会の成果報告

2011年度研究部会・委員会活動の締めくくりとして「2011年度成果報告会」が会員限定で開催されました。

会場には情報保障として、音声を瞬時に入力し会場スクリーンに表示するパソコン文字通訳が展開されました。文字通訳のスピードが早いと、登壇された方々が感心していました。

また、事務局スタッフのひとりが8か月の子供を連れて、受付や進行业務にあたりました。子育てと両立しながら働く姿が、参加者に強いインパクトを与えたようで、多くの方からやさしい言葉を掛けられました。

開会の辞、情報交流センターおよびワークショップ委員会からの報告の後、研究部会から8つのプロジェクト（PJ）およびワーキンググループ（WG）が報告を行いました。

発表内容の詳細は、ホームページの「IAUDだより」をご覧ください（会員限定）↓

<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1204/06-000000.php>

今号では会場に展示された各PJ/WGのパネルをご紹介します。

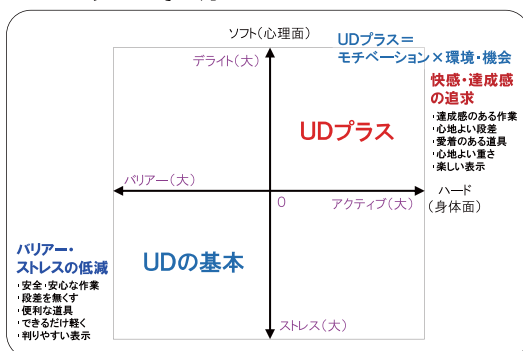
誰もが心豊かに暮らせる住空間づくりを目標に、生活シーンからのアプローチによるテーマ研究を進めており、様々な視点から「楽しいUD」の実現を目指しています。

1. 機能低下を防ぎ向上させる、新たなUDの提案

身体的、心理的に適正な負荷(刺激)を与えることで、機能低下を防ぎ向上させるというUDプラスのコンセプトで、新たなUDのあり方の事例研究に取り組んでいます。

仮説：『UDプラス＝モチベーション × 環境・機会』

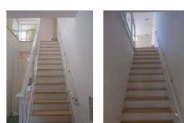
■UDプラスの考え方



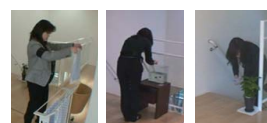
■UDプラスコンセプトの検証

早稲田大学渡辺仁史研との共同研究による実証実験

●空間の仕掛け



●モチベーションの仕掛け



日常生活の場面において、空間(環境)や生活行為の質(仕掛け)により、行動(階段昇降)するための達成感や楽しさが増大する効果が確認できた

2. 「UDプラス」の気づきを共有

「夢のみずうみ村・浦安」にて視察ワークショップを実施し、様々な仕掛けに気付くことで、「UDプラス」の視点を各プロジェクト間で共有しました。

■ワークショップの様子(2011.10月～11月)



浦安デイサービスセンター全景

工場を改装した外観。

「人生には定年がありません。あなたも人生の現役でありつづけましょう。」



広くて明るい室内

元工場の特徴をいかした、天井が高く間仕切り少ない開放的な空間。それぞれの活動にあわせて専用室やコーが設けられている。



多彩な活動メニュー

一人ひとりが好きなメニュー(元気の素)を自主的に選ぶ。「脳を活性・手先を鍛えるメニュー」「身体を鍛えるメニュー」「身体をいやすメニュー」



玄関ホール「生きがい養成所」

「人生の現役養成道場とは、生活する力、いきる力をつかむ場所です」



ワークショップで「気づき」を共有

「気づきシート」をもとに意見交換し、「UDプラス」の気づきを共有する。



歩きまわりたくなる仕掛け

センター内の通路にはさまざまな仕掛けがあり、例えば、「クイズに夢中になっていたら、たくさん歩いていた・・・」となるような工夫がされている。

UDプラスの仮説検証をすすめるとともに、「客観的な指標」づくりを目指し、コンセプトを発信していきます。

公共交通のシームレスな移動空間の実現へ

移動空間PJは、「情報の継ぎ目のない移動環境の実現」を目標に研究活動を行っています。

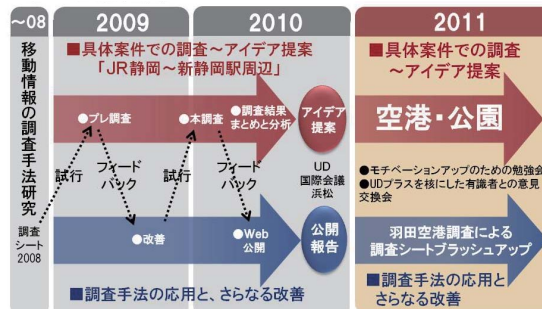
■従来より継続して行っている「移動情報の調査手法研究」の一環として、羽田新国際空港ターミナル案内情報の調査を実施。調査シートのブラッシュアップを図りました。

■公共空間のさまざまなシームに着目し、公園ゲートの調査を実施。問題点分析～アイデア抽出を行いました。

●活動目標



●活動の経緯



●メンバー 理事: 河原 弘(トヨタ自動車) 主査: 塩野太郎(日野自動車) 副主査: 内山和也(トヨタ自動車) 副主査: 横川浩大(東急車輛) 事務局: 津田 学(NTTデータ) 伊賀公一(CUDO) 井藤孝一(ダイハツ) 加藤 寛(カルソニックカンセイ) 清水 由美子(東京都市大学) 藤林 祥浩(ダイハツ) 福井美佐(エルムデザイン) 堀内 陽子(Proton2 Design Associates) 前田 亮一(たいとう診療所) 御影幸宣(ヤマハ) 水上篤哉(パイオニア) 山本真也(NTTデータ) 陽川まり(クラリオン) 渡邊邦彦(日野自動車) 渡邊 聡(個人賛助会員) 和田紀彦(日立製作所)

1. 調査手法の有効性を確認

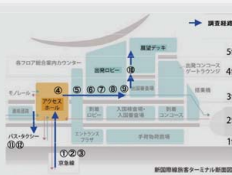
羽田新国際空港における案内情報の調査

UD先進事例と他事例の評価を比較。

→調査手法の評価精度が妥当であることを確認。

●調査概要

「移動情報UD調査シート」を使用してUD先進事例の羽田新国際空港の案内情報における「見つけやすさ」「わかりやすさ」を客観的評価をおこなった。



●調査シートの評価

わかりづらい箇所が多い事例



UD先進事例(羽田新国際空港)



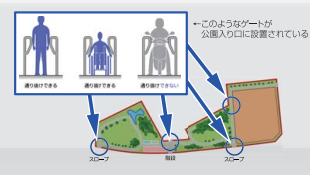
2. 公共空間の様々なシームに着目

公園ゲートのフィールドワーク

フィールドワーク～問題点分析～アイデア抽出
の手法をブラッシュアップ

●調査概要

歩行者・車椅子は通行できるが、自転車やバイクが公園内に進入できないゲートを設置している公園SIにて実体験調査をおこなった。



●問題点分析

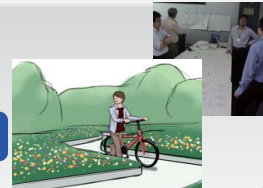
規制や禁止、警告などでは問題解決になっていないのでは・・・



●アイデア抽出

デザインマラソン方式でアイデアを抽出

心理的に自転車乗入れを防いだり、自転車なども共存できないかというアイデア



テレワーク × ユニヴァーサルデザイン

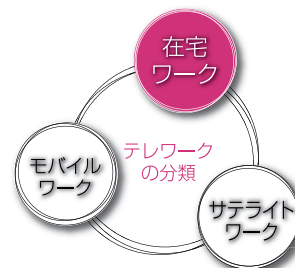
労働環境プロジェクトでは様々な特性をもつすべての人が気持ちよく働ける未来オフィスの労働環境を目指して活動しています。

『テレワーク』について

ICTの進歩を背景に、ワークライフバランスや柔軟な働き方に対する関心が高まっています。また東日本大震災をきっかけに、通勤困難や節電の対策として、テレワークへの関心が一気に高まりました。

節電対策 通勤困難 仮設住宅 帰宅難民 就職困難

本プロジェクトでは、場所や時間にとらわれないユニヴァーサルな働き方である『テレワーク』のうち『在宅勤務』に着目し、UDに関する研究及び情報発信を目指します。



『ユニヴァーサルな働き方』の事例を調査

エイブル・アート・ジャパン 様

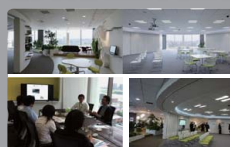


多様性や特性を活かしたワークスタイルの先進事例

表現力のある障害をもったアーティストと企業をつなぐNPO法人。著作権ビジネスやワークショップなどを主な活動とする

障害の有無に関わらず、クリエイティビティを多様性の一つとし**労働観を変える**ワークスタイルを実現。

カタリストBA /クリエイティブ・シティ・コンソーシアム 様



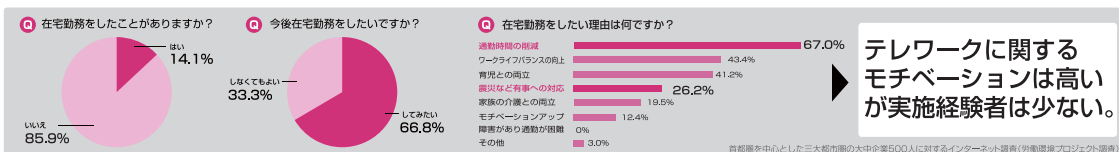
コ・ワーキングによる共創ワークスタイル事例

企業・自治体・有識者・地域住民などセクターを超えて交流するオープンイノベーションのための共創の場。

コミュニティによる共創の場にて多様な特性を活かした新たな雇用機会やワークスタイルを実現。

テレワークに関する意識調査と方針

テレワーク未実施者の意識調査 (WEBによる定量調査)



テレワーク実施者の意識調査 (インタビューによる定性調査)

テレワーク実施者の現場の声を現在調査中！

「テレワーク経験」のある電機メーカー社員2名にインタビューを実施
①子育て支援 ②視覚障害支援

- * 通勤困難 < 職場メンバーとのコミュニケーション
- * 障がい者に対する様々な配慮が不足
- * 厳格なルールによって想像より自由度が低い
- * 週に一日在宅勤務するのが限界
- * 狭い自由度の中でも、制度に価値を感じている
- * 在宅勤務 = 自宅出張という捉え方



統計情報では得にくい新たな気づきや課題を発見。

今後の活動方針

1. フィールドワークを継続、現場を可視化(インタビュー調査 / 関連施設の視察)
2. 多様に関連するステークホルダーとのワークショップ・セミナーを開催
3. テレワークを導入する際のダイバシティに配慮したガイドブック化・情報発信

『テレワーク×UD』ガイドブック化を目指し、ユニヴァーサルなテレワークスタイルを発信します。

労働環境プロジェクト 新メンバー募集！

企業の枠を超え、多様なステークホルダーと連携して、未来の働き方をいっしょに考えませんか。

IAUD メンバー募集



理事：橋本ハリス 主席：富士通デザイン 副主席：イトード
メンバー：株式会社リコー、パナソニック株式会社、キヤノン株式会社、住友スリーエム株式会社

コンセプト

私たちは「うれしい、楽しい、面白い」をキーワードに余暇が充実する社会づくりを目指して活動しています。



プロジェクト活動

私たちは、メンバーの属性や特徴を活かしたテーマに取り組んでいます。月一回の定例会に加え、UD施設見学や有識者講演なども行っています。



参加メンバー

株式会社NTTデータ
株式会社DNP映像センター
株式会社乃村工藝社
パイオニア株式会社
株式会社日立製作所
株式会社リコー
他賛助会員3名



① テレビCM字幕 実現への動きが出てきたCM字幕。今後はこの動きが加速するよう活動していく。

私たちは2006年より、なぜCMには字幕がないのか？どうすれば字幕がつくのか？について調査・研究、提言をしてきました。今年に入り、CM字幕の実施が行われるなど、実現に向けた動きが出てきました。



調査・分析・研究



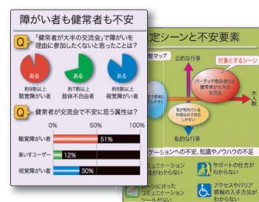
広報・啓蒙



CM字幕トライアル開始

② 交流会のUD 誰もが楽しめる交流会のノウハウやツールを提案。

懇親会や飲み会で、障がいのある人達も本当に楽しめているのか？といった疑問からアンケート調査や本音を引き出す会を実施。私たちはみんなが笑顔になれるノウハウや楽しいコミュニケーションツールを検討、試作しました。



アンケート・ヒアリング



ツール試作・検証・分析



冊子作成

機能性とファッション性の融合

「ユニバーサルデザイン」という万人に受け入れられることを目的としたデザインと「ファッション」という個性や流行を重視したものという一見相反する概念を融合させることをテーマに活動を続けています。

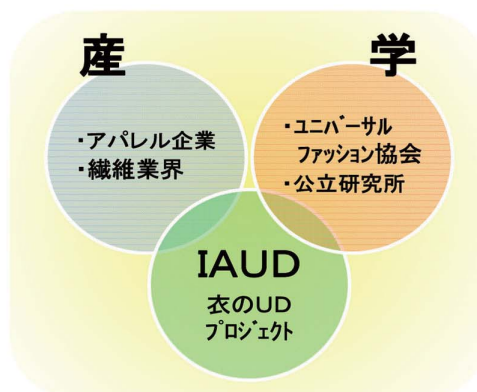
＜その機能は美しいか＞

衣のUDプロジェクトの目指すものは
「人にやさしい」「機能性のある」「ファッション」をしっかりとカタチで世に出すこと。

それには＜産学共同＞作業は必須事項

産 ・新しい素材・副素材の情報と提供
・製品化による社会貢献

学 ・衣服の学問的見地、ファッション情報
・評価・検証とデータ収集



産・学共同で研究に取り組む

UDジャケットの研究開発

2010年
浜松国際大会での発表



進化版の研究開発

そして製品化

災害時のUD衣料とは何か？

大災害の避難中に衣服を選ぶ余裕は無い

その時、真に役立つ衣服とは何か？

今、災害用衣料はどのようなものがあり
実際は何か必要とされているのか

研究を続け実用的な物を作り、広めたい

企業とのタイアップ & 自治体との連携も



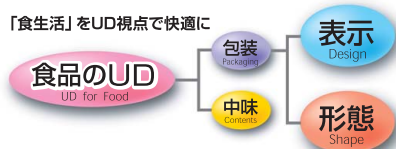
衣のUDプロジェクトは皆様の参加をお待ちしております

ファッションと機能性の融合

＜衣服のプロ＞でない視点が欲しい

食のUDプロジェクトとは…

「食生活」をUD視点で快適に



「食のUDプロジェクト」は、2006年の発足以来、UDの観点から主に「食」に共通する課題をテーマに活動してきました。「食」は人が生活をする上で最も重要な行為のひとつです。私たちは生活者にとって快適な「食」のあるべき姿を考え、そのアプローチを行っています。

1. 「やけど注意」ピクトグラムの標準化推進

新ピクトグラムの提案と普及活動

日本での標準化を目標とする「やけど注意」ピクトグラムを作成。「JIS消費者用警告図記号一試験の手順JIS S 0102」準拠試験の合格基準点数をクリアし、国際ユニヴァーサルデザイン協議会から2010年4月にリリース。生活者に伝わりやすい「やけど注意」図記号として公開されました。



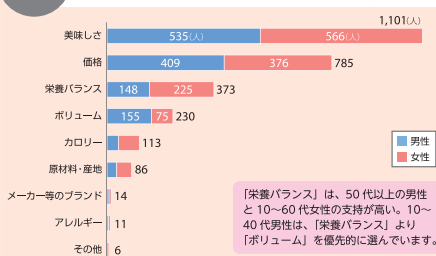
2. 食生活に関する実態調査

生活者が「食」に関して感じている率直な気持ちを把握する「生活者実態調査」を4年連続で実施しています。今回は日本人が、どのような食生活を送り、「食」に関してどう考えているかを調査しました。

※以下は調査結果の一部抜粋です。

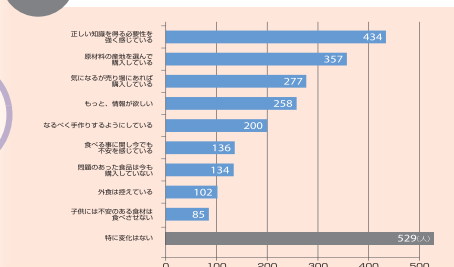
「食事」で重視する事は？

質問 あなたが食事を選ぶ際、食事をする際、重要視することは何ですか？
(複数回答 2項目まで)



3.11後、食生活に変化は？

質問 震災後の放射能問題により、あなたの食生活に関する意識、行動に変化はありましたか？
(複数回答 3項目まで)



「食のUDプロジェクト」では「食」を見つめ、「食」がより快適で楽しくなるような工夫や配慮を、パッケージや表示デザイン、食の提供方法などを通じて、今後も探求していきたいと考えています。

すべての人に、確実に情報を伝えるために

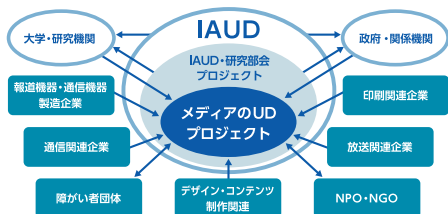
【社会背景】

デジタル技術の発展による様々な変化

- 多様な色覚に配慮したカラーユニバーサルデザイン
ー啓発活動から普及活動へー
- 超高齢社会の到来とポスト3.11
ー情報弱者の拡大と情報保障に関心を高める企業ー

【プロジェクト活動の目的】

- ユニバーサルデザインの視点でメディアの変化をとらえ、新たな社会的課題を見つけ出す。
- 社会的課題を、企業・団体・教育機関・自治体へ発信し、情報弱者への社会的配慮を促す。



【プロジェクト活動のテーマ】

研究素材として、多様なテーマから「色」を選択

- 情報弱者の課題発見から対策を検討
- メディアに求められる社会的要請を明確化
- 人にやさしいメディアの創出

【参加メンバー】

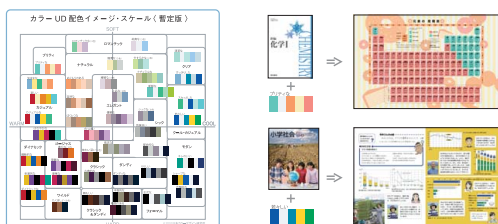
情報処理、メーカー、映像制作、出版・印刷、業界団体、NPO法人など、22団体/賛助会員が参加。



色のユニバーサルデザインを広げる二つの研究

カラーUD配色イメージスケール

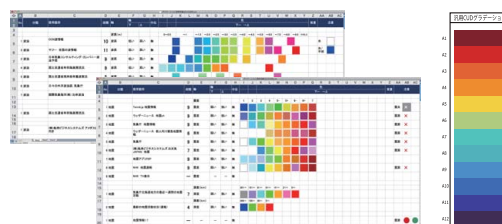
- 課題意識：メディアのカラー化が進むなか、判別性を確保し、その配色が持つイメージを伝えることができないだろうか
- 調査・開発：
 - ・カスタマイズした「UDing CFUD」で「5色配色イメージ・スケール」を検証
 - ・暫定版と適用事例を第3回国際ユニバーサルデザイン会議@浜松で発表
- 今後の展開：実用化に向け暫定版を検証・精緻化



■暫定版 CUD 配色カラーイメージスケール / 配色適用事例

カラーUDグラデーション

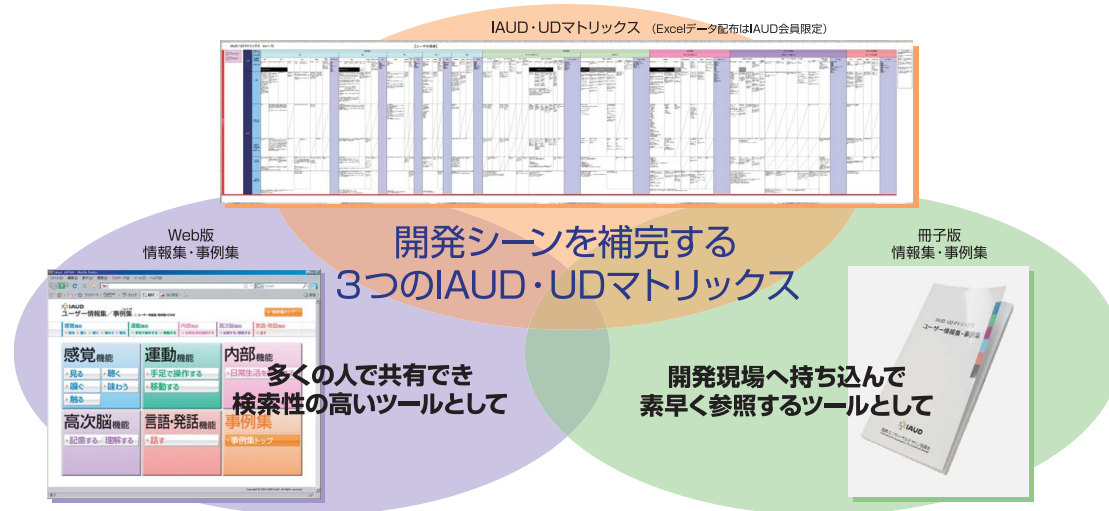
- 課題意識：気象情報やハザード情報を、多くの人に直感的に伝える色使い（グラデーション）ができないだろうか
- 調査・開発：
 - ・国内外事例の収集、分析
 - ・汎用グラデーション（12色）を開発
- 今後の展開：
 - ・適用事例の制作
 - ・汎用グラデーションの修正
 - ・実用化に向け検証・精緻化



■ハザード表示色の収集と分析 / 汎用 CUD グラデーション（12色）

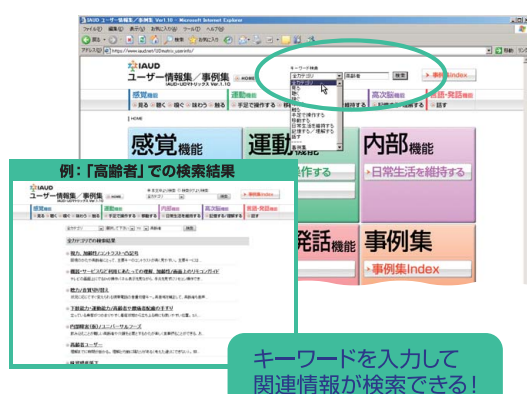
活動紹介

産業全般のUDレベルの向上にむけて、共有すべき情報やルール（規格化）の研究を行なっています。
使い手を正しく理解するために「多様な人の属性」に着目し、「IAUD・UDマトリックス」を公開しています。



2011年度の活動

1. Web版マトリックスに検索機能追加の改善を行ない、知りたい情報を探しやすくしました。
2. 最新の情報収集と次の取り組みテーマを模索するために、多様な講演会・意見交換会を開催しました。



主な講演会・意見交換会

- 「国際標準戦略」
産業総合技術研究所・持丸正明センター長
- 「やさしい日本語」
大東文化大学・前田理佳子講師
- ・標準化は、従来にない新しい価値をグローバル化させることができる。
 - ・標準化は、より有利なルールで戦い、より良い社会に貢献するものである。
 - ・情報弱者(外国人等)を減らす「減災」の取組み
 - ・わかりやすく伝える情報整理と再構築の手順
 - ・やさしい日本語作成支援ソフト「YANSIS」の紹介
- 「ポスト3.11に求められるデザイン」
日経BP社・下川一哉日経デザイン編集長
- ・命を守る・生き残るためのデザイン
 - ・新しい未来を切り開くためのデザイン
 - ・普段の生活で使え、災害時も役に立つデザイン
- 各詳細はIAUD Newsletter掲載

今後の活動のキーワード

- UDプロセスの標準化、グローバル化
- 安全ピクトグラムの標準化
- カラーUDの標準化
- 電力パッケージの標準化
- 低い環境負荷、市場多様性を考慮したUD

2012年度の計画

- ① 講演会で得た知見を踏まえ、事例集の更新など、UD関連情報の充実を図ります。
- ② 各PJ活動での成果の標準化検討を進めていきます。

大好評だったプレイヴェント

続いて、本年 10 月に開催する「第 4 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2012 in 福岡」のプレイヴェントが一般公開で開催され、国際会議のテーマでもある「安全・安心～UD の基本を考える～」に関連した基調講演と講演会が行われました。

東日本大震災の復興現場で活動された方々による切実で具体的なお話に、参加者の皆様は身を乗り出て聞いており、講演後には活発な質疑応答が展開されました。

■基調講演 増田寛也（野村総合研究所顧問／東京大学公共政策大学院客員教授／元総務大臣／前岩手県知事）



今後は世界との関係で復興を考えなければならないこと、また想像力の駆使によって問題に当たっていかなければならないなど、被災自治体の元首長としてのお立場からお話しをしていただきました。

基調講演の要約はこちらをご覧ください↓

<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1204/10-020100.php>

講演後の質疑応答で「被災者ご自身は、実際どのように復興計画に関わられているのか」という質問には、「被災地での復興計画の作り方は千差万別。自治体間格差には気をつけなければならない。被災者との関わりも、大きな自治体では可能であっても、小さな自治体は手が回らないのが実態」とお答えいただきました。

また、「被災地での心のケアで大事なところは」との質問には、「どこまで本当になって寄り添えるか。行政の立場から離れて長く継続してやる方が、閉ざされた心の窓を開いていただけるのでは。寄り添うことは、これからやっていくべき事。心の問題として積み重なっていることを、どう改善するか話し合うのが大事」と述べました。

■講演会 竹本竜司（防衛省統合幕僚監部運用第 2 課長）

自衛隊の被災地での活動のお話には、参加者は皆、感銘を受けていた様子でした。

また、防衛省と UD との接点を改めて確認できた内容でした。

講演の要約はこちらをご覧ください↓

<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1204/10-020200.php>



講演終了後、「障がい者が災害に遭った時、先ず自助という想定があって訓練をされていたか」という質問には、「焦点を当てた訓練は記憶にない。今回の事例では、原発からの避難で、かなり重度の病気の方などを避難させた例があった。救急車かバスなのか、適切な装備の情報を獲得する時間に手間取った。今後、緊急避難を要するところについては、要介護者がある程度掌握して、割り振ることが必要」とお答えいただきました。また、障がい者の方からの「聞こえない人や外国人など、情報が入らない弱者に対して自衛隊としての対応は」との問いには、「要介護者の対応ということ。このような方々が、どこにいてどうなっているのかという情報は地方自治体が管理している。情報発信については、我々としてはまだその分野まで考えが及んでいない。政府としても、情報発信のあり方をすべきという認識」と回答をいただきました。障がい者の方が防衛省の方に、自分たちをどう救ってくれるのかということをご直接言えた、よい機会となりました。

■講演会 伊東豊雄氏（伊東豊雄建築設計事務所代表）



ご自身が関わっている復興に関する具体的なお話をいただきました。建築に誠実に取り組まれている姿、また、震災復興に真摯に取り組まれている姿勢が伝わりました。

講演の要約はこちらをご覧ください↓
<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1204/10-020300.php>

会場からの「避難する際に重要な道路に関してはどのように考えているのか」との質問には、「住居はある高さ以上は絶対安全。しかし、外にいる方は道路をたどり、高台に逃げなければならない。だから、私は坂の美しい町をつくりたい。大事なことは単に安全・安心のために坂道をつくったり、道路を整備するのではなく、その道路を街の人が愛しているかが大事。目に見えない美しさ、楽しさがこれからの復興計画に織り込まれることが一番大切」とお答えいただきました。（了）

IAUD 2012 年 5 月の予定

- 10 日 (木) 14 時半～メディアの UD 定例会 (IAUD サロン)
- 11 日 (金) 9 時半～ 住空間 PJ 見学会 (武蔵野プレイス)
15 時～ 研究部会定例会 (IAUD サロン)
- 14 日 (月) 14 時半～衣の UDPJ 定例会 (IAUD サロン)
- 15 日 (火) 13 時半～労働環境 PJ 見学会及び情報交換会 (スマートハウス)
15 時～ 運営企画会議会合 (IAUD サロン)
- 18 日 (金) 13 時～ 余暇の UDPJ 定例会 (乃村工藝社)
- 23 日 (水) 14 時半～食の UDPJ 定例会 (IAUD サロン)
- 25 日 (金) 14 時～ 住空間 PJ 仮設住宅提言 WS (IAUD サロン))

メンバー募集中の研究部会・委員会はこちら↓

<http://www.iaud.net/news-f/archives/1204/17-134308.php>

次号は 5 月下旬発行予定

特集：UD の取り組みに関する財務省へのインタビュー (予定)

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター (IAUD サロン) :

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話 : 03-5541-5846 FAX : 03-5541-5847 e-mail : salon@iaud.net